

## バイオ人工膵島の First in human 臨床試験に向けた想い

国立国際医療研究センター病院膵島移植センター センター長  
国立国際医療研究センター研究所膵島移植企業連携プロジェクト長 霜田雅之

私はもともと消化器外科医ですが、17年ほど前、一度発症すると根本的には治らないと思っていた糖尿病を移植治療で治す方法があると知って衝撃を受け、それまでメインとしてやってきた癌の手術から、膵島移植の分野に飛び込みました。

松本慎一先生のもと米国で膵島移植を学び、日本に帰国してプログラムを立ち上げ、多くの方のご協力のもと実施することができるようになりました。

膵島移植は効果のある治療ですが、しかし、受けられる患者さんの数は限られていて、多くの方に移植することができません。

希望する多くの患者さんに膵島移植を受けていただきたい、そのために現在もっとも実現可能性が高い方法は、医療用ブタからのブタ膵島を用いるバイオ人工膵島移植と考えています。

まったく新しい治療法であり、安全性など懸念点もあります、しかしそのような懸念点は克服していき、最終的には受けたい患者さんが皆受けられるようになる、そのビジョンが私の頭の中にあります。

きっとたくさんの患者さんに喜んでいただけると信じています。患者さんに初めてバイオ人工膵島を移植する臨床試験である First in human 試験の実施は、その実現のためのとても大きな一歩になります。全力で達成する所存です。

皆様の応援、ご協力をお願いいたします。